

## 5-12 廃棄物等

### 5-12-1 現況調査

#### 1. 調査結果

##### (1) 工事の実施に伴う建設副産物の発生量

###### 1) 建設副産物

工事の実施に伴い発生する建設副産物は、造成工事においては対象事業実施区域に設置されていた旧ごみ焼却施設の地下埋設物（既存杭）により発生するコンクリート塊及び鉄くずが想定される。また、建設工事においては建設発生土が想定される。

造成工事及び建設工事に伴う建設副産物の種類及び発生量は表 5-12.1 に示すとおりである。

表 5-12.1 造成工事及び建設工事に伴う建設副産物の種類及び発生量

工事	対象施設	種類	発生量
造成工事	地下埋設物(PC杭:約55m <sup>3</sup> 、鋼杭:約79m <sup>3</sup> )	コンクリート塊	129.7 t
		鉄くず	88.9 t
建設工事	ごみ焼却施設	建設発生土	10,500 m <sup>3</sup>

###### 2) その他の建設副産物

施設建設に伴い発生するその他の建設副産物については、「建築系混合廃棄物の原単位調査報告書」（平成24年、社団法人建築業協会環境委員会副産物部会）で報告されている用途・規模別の排出原単位調査結果に基づき推定した。

主要な計画施設の延床面積及び用途より推定される推定される計画施設の建設副産物の発生量を表 5-12.2 に示す。また、計画施設の建設副産物発生量及び建設副産物の重量比原単位より各廃棄物の発生量を表 5-12.3 に示すとおり算出した。

表 5-12.2 建築工事に伴う建設副産物の量

主要施設	建物面積 (m <sup>2</sup> )	階数	延床面積 (m <sup>2</sup> )	建築工事 排出原単位 (kg/m <sup>2</sup> )	建設副産物 発生量 (t)
ごみ焼却施設	3,018	地下1階～地上5階	12,220	18	220
管理棟	243	地上3階	729		13
合計	3,261	—	12,949	—	233

表 5-12.3 建設副産物の種類、原単位及び発生量

廃棄物種類	廃棄物の重量比原単位 (%)	建築工事発生量 (t)
コンクリートがら	25	58.25
アスファルトコンクリート	6	13.98
ガラス陶磁器	5	11.65
廃プラスチック	8	18.64
金属くず	6	13.98
木くず	13	30.29
紙くず	7	16.31
石膏ボード	8	18.64
その他	22	51.26
計	100	233

出典：「建築系混合廃棄物の原単位調査報告書」（平成 24 年、社団法人建築業協会環境委員会副産物部会）

## (2) 施設の稼働に伴う廃棄物の発生量

施設の稼働に伴い発生する主な廃棄物には、ごみの焼却処理における焼却残渣（主灰、飛灰等）が挙げられる。焼却残渣の量は、表 5-12.4 に示すとおりである。

表 5-12.4 施設の稼働に伴う廃棄物の発生量

施設	廃棄物等の種類	発生量 (t/年)
ごみ焼却施設	焼却残渣（主灰、飛灰）	約 3,400

注) 発生量は、メーカーヒアリングによるごみの処理量及び発生する焼却灰等の物質収支に基づき、計画施設の稼働日数及び稼働時間から算出した推定量を示す。

## 5-12-2 予測及び評価の結果

### 1. 土地の改変に伴う廃棄物等の影響（工事の実施）

#### (1) 予測

工事の実施に伴う建設副産物の発生量及び処分内容は、表 5-12.1 及び表 5-12.3 に示したとおりである。

これらの建設副産物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「資源の有効利用の促進に関する法律」（平成 3 年法律第 48 号）及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき、適正な処理及び再利用、再資源化を図るとともに、再利用及び再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行う。なお、建設発生土は全量を事業地内にて使用する。

これにより、315.82 t の廃棄物及び約 10,500m<sup>3</sup> の建設発生土が、再資源化または再利用等され、最終処分量は 135.78 t となると予測する。

表 5-12.5 工事に伴う建設副産物の種類及び発生量

廃棄物等種類	発生量			再資源化率	再資源化量	最終処分量
	造成工事	建設工事	建築工事			
コンクリートがら	129.7t	—	58.25t	99.4%	186.82t	1.13t
アスファルトコンクリート	—	—	13.98t	99.7%	13.94t	0.04t
ガラス陶磁器	—	—	11.65t	—	—	11.65t
廃プラスチック	—	—	18.64t	—	—	18.64t
金属くず	88.9t	—	13.98t	45.5%	46.81t	56.07t
木くず	—	—	30.29t	96.4%	29.20t	1.09t
紙くず	—	—	16.31t	96.4%	15.72t	0.59t
石膏ボード	—	—	18.64t	—	—	18.64t
その他	—	—	51.26t	45.5%	23.32t	27.94t
計	218.6t	—	233t	69.9%	315.82t	135.78t
建設発生土	—	約 10,500m <sup>3</sup>	—	100%	約 10,500m <sup>3</sup>	0m <sup>3</sup>

- 注) 1. 再資源化率は、「平成 30 年度建設副産物実態調査結果【参考資料】」(令和 2 年 1 月、国土交通省総合政策局発表)より、中国地方ブロックにおける建設副産物の再資源化率等を当てはめた。  
 2. 金属くずは、造成工事に伴う地下埋設物(鋼杭)の撤去により発生するが、現状で杭の構造等が明確でないため、建設混合廃棄物の再資源化率を当てはめた。  
 3. 建設発生土は全量を場内利用する計画とした。

## (2) 環境保全措置

土地の改変に伴う廃棄物等の影響を回避または低減するため、以下に示す環境保全措置を講じることとしている。

- ・建設発生土の再利用: 土地の改変に伴う発生土砂は、地盤高の調整に用いる等、場内で利用し、原則的に場外搬出を行わない。
- ・建設副産物の再資源化の徹底: 施設の建設に伴い発生する建設副産物は、分別し再資源化を徹底する。

## (3) 評価

### 1) 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置を踏まえると、土地の改変に伴う廃棄物等の影響は、環境保全措置を講じることにより、回避または低減が期待できるものと考えられる。

また、発生する建設副産物のうち建設発生土については全量を場内で再利用し、その他廃棄物については可能な限り再資源化を図ることで、発生する建設副産物の約 7 割を再資源化する。再利用及び再資源化できない建設副産物については関係法令等に基づき適正に処理・処分される。

以上のことから、土地の改変に伴う廃棄物等の影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。

## 2. 施設の稼働に伴う廃棄物等の影響（存在及び供用）

### （1）予測

施設の稼働に伴って発生する焼却残渣の量は表 5-12.6 に示すとおりである。

焼却残渣については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、令和4年4月より供用を開始した井笠広域一般廃棄物埋立処分場に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、井笠広域一般廃棄物埋立処分場の次に整備する最終処分場（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画である。

なお、井笠広域一般廃棄物埋立処分場の状況は表 5-12.7 に示すとおりであり、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。

表 5-12.6 施設の稼働に伴う廃棄物の発生量と処分内容

廃棄物等の種類	発生量 (t/年)	処分内容
焼却残渣（主灰、飛灰）	約 3,400	埋立

表 5-12.7 現在整備中の最終処分場の処理能力等

項目	内容
施設名称	井笠広域一般廃棄物埋立処分場
設置主体	岡山県西部衛生施設組合
所在地	岡山県井原市高屋町字野々迫地内
埋立開始	2022年度（令和4年4月供用開始）
埋立終了	2036年度（予定）
埋立面積 (m <sup>2</sup> )	12,800
埋立容量 (m <sup>3</sup> )	104,600

出典：「岡山県西部衛生施設組合 資料」

### （2）環境保全措置

施設の稼働に伴う廃棄物等の影響を回避または低減するため、以下に示す環境保全措置を講じることとしている。

- ・磁選機の設置：焼却灰から鉄等の金属類を回収することで、ごみの再資源化を図る。

影響の予測結果を踏まえ、施設の稼働に伴う廃棄物等の影響をさらに低減するため、追加的な環境保全措置の検討を行った。検討の結果、実施可能な環境保全措置を以下に示す。

- ・分別・減量化の促進：分別回収の徹底及びごみ減量化の取り組みを推進する。

### （3）評価

#### 1) 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う廃棄物等の影響は、環境保全措置を講じることにより、回避または低減が期待できるものと考えられる。

以上のことから、施設の稼働に伴う廃棄物等の影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。